
絵本の住人

アマガミ ハギト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

絵本の住人

【Nコード】

N0495L

【作者名】

アマガミ ハギト

【あらすじ】

絵本に住むあかずきんの似合う少女のお話。

毎日毎日同じ日々を過ごしている絵本の住人。

変わらぬ世界を作り出してくれる絵本。

登場人物にも心があるって知ってましたか？

ある日の事。

赤い頭巾の似あう少女は母に頼まれ

おばあちゃんの家に向かっています。

そしていつも通り寄り道をして狼に話しかけられました。

「また花を摘んでるの？向こうにもっと綺麗な花があったよ」

「いつもありがとう。教えてくれたのね。また行ってみるわ」

少女は慣れた足取りで綺麗な花があるところまで歩き始めました。
狼も又慣れた足取りでおばあちゃんの家まで歩き始めました。

狼はおばあちゃんの家に着くと

おばあちゃんがいつも同じようにベットで寝ていました。

「あら、狼さんまた来たの？今日も食べていくんでしょ」

「おばあちゃん今日もいただきますよ」

狼はいつもと同じようにおばあちゃんを丸飲みしました。

おばあちゃんを飲んだ後、

狼は慣れた手つきでおばあちゃんの恰好に着替えました。

すると花を摘んできた少女がおばあちゃんの家に着きました。

「おばあちゃん、また聞いてもいい？」

「また質問かい、いいよ。質問してごらん」

「どうしておばあちゃんの耳はいつも大きいのか？」

「またその質問かい。それはねお前の声が良く聞こえるようにだよ」

「どうしておばあちゃんの口はいつもそんなに大きいの？」
「またその質問かい。それはねお前を丸飲みするためだよ」

少女は昨日と同じように狼に丸飲みされました。

おしまい。

「まーまたこの絵本読んでよお」

「またそれ？いつも本の途中で寝ちゃうくせに好きだねえユウ君は」

（きっと少女は彼のせいで

本当のおばあちゃんの顔を忘れてしまったと思う。

絵本の住人たちも飽きただろう。つまらない劇を繰り返すのは。）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0495/>

絵本の住人

2010年10月11日06時35分発行